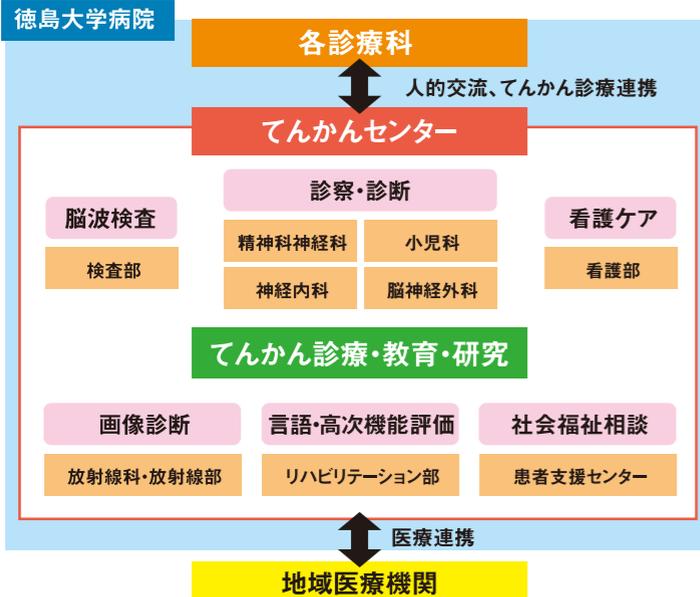


# てんかんセンター

平成28年12月に  
てんかんセンターを  
開設しました。

## ◆ てんかんセンターの概要

てんかんを持つ方は100人に1人の割合でみられ、稀な疾患ではありません。てんかんの治療は(1)抗てんかん薬による薬物療法 (2)食事療法 (3)手術があります。7割程度のてんかん患者さんは薬物により発作が治まりますが、残り3割の方は「難治性てんかん」と呼ばれ、発作が持続している事があります。また、運転免許・就職・妊娠・医療社会福祉などに関する不安を抱えている方もいます。そこで、てんかん診療に関わる診療科や診療部門が連携して包括的なてんかん診療・教育・研究を行うことを目的として「てんかんセンター」を開設しました。



## ◆ 最新の診断・治療法

### 1 ビデオ脳波モニタリング

てんかんは外来で詳しい問診および脳波や画像検査などから総合的に診断されます。多くは外来診療で正しく診断されますが、残念ながら外来診療のみでは、正しく診断されないこともあります。外来診療のみで診断が困難である場合やてんかん発作が薬物で十分に抑制されていない場合にはビデオ脳波モニタリングを行います。

入院して約5～7日間連続してビデオと脳波を監視する検査を行っています。場合によっては内服している抗てんかん薬を減量あるいは中止し、発作の瞬間を記録します。検査結果はてんかん症例検討会にて治療方針を決定します。



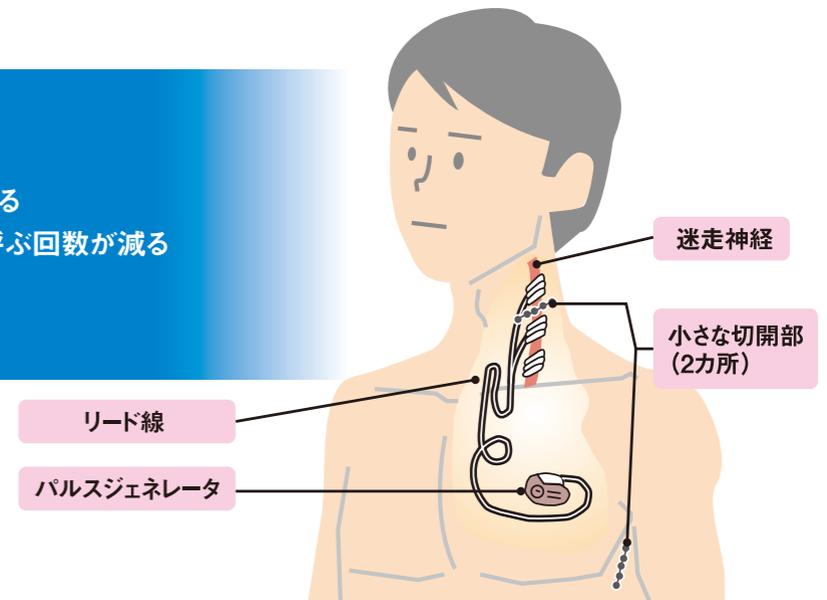
### 2 迷走神経刺激療法

てんかんの治療は、第一に発作のコントロールとしての抗てんかん薬による薬物治療、第二に発作を止めることを目的とした開頭手術によるてんかんの原因となる焦点の切除術(根治術)の検討を行います。全ての患者さんに手術が適用となるわけではありません。

根治術が困難な場合は、電極を左頸部の迷走神経に巻き付け、刺激装置を左の前胸部に埋め込むことで一定の間隔で繰り返し電気刺激を送り、てんかん発作の回数を低下させ、発作の程度を軽くする「迷走神経刺激療法(VNS)」がすすめられており、本院においても実施しています。

#### 効果

1. 発作の頻度を減少させる
2. 発作の程度を軽くする
3. 発作の持続時間を短くする
4. 発作のために救急車を呼ぶ回数が減る
5. 感情的に安定する
6. 覚醒度や記憶を高める



#### 患者の皆様へ

近年、新しく使用できる抗てんかん薬の種類も増え、今まで発作が抑制できなかった患者さんにも有効となる可能性があります。また、診断方法や手術療法も日々進歩しています。その他、不安や心配事などがあれば、お気軽にご相談ください。



■説明は、徳島大学病院てんかんセンター

森 健治 (もりけんじ) センター長 (前列中央)

東田 好広 (とうだよしひろ) 副センター長 (前列左から3番目)

多田 恵曜 (ただよしてる) 副センター長 (前列左から2番目)